

フクシアの育て方

フクシアの原産地は中米、南米などに約100種自生しております

ヨーロッパやアメリカなどでは、盛んに栽培され、ハンギングやコンテナ、スタンダードに仕立てて、花壇によく植栽されています。一般に暑さ(25以上)に弱いものが多いですが、耐暑性のあるものもあります。

フクシアはほとんど長日性でよく開花し、日が長いと次々花をつけます。がF.triphyllaは中日性で、日の長さに関係なく開花する性質をもち、その子孫も親の形質を引継ぎ、交雑種も中日性となり、日の短い季節でも温度さえあれば開花してきます。

フクシア ハイブリッド *F×hybrida*

magellanica, fulgens を中心に交雑され 作られた園芸品種群を *F×hybrida* としている。

育て方

置き場所 基本的に温度が25以上になると弱ってきますので 夏 涼しい 北海道向きの植物といえます。北海道でも、夏は気温25以上になる場合は、半日陰で管理し、気温が25以上ならない時期は出来るだけ、日光にあててやります。

水やり

フクシアの根は毛根なので乾かしすぎると傷みます。痛んだ根はその後の水やりで傷みやすく、水のやりすぎで腐ったと思われるがちです。やりすぎに注意して、鉢の表面が乾いてから十分に与えてください。

用土

土は水もちと水はけをよくする必要があります。市販の培養土にピートモス 火山レキ パーミキュライトなどを加えると良いでしょう。

肥料

フクシアは葉を生長させながら花を次々と開花させていく為、わりと多めの肥料を必要としますので、生育してる間は液肥を2,000~3,000倍に薄め、水を与える時に水と液肥を混ぜて与える方が良いでしょう。

病害虫

病害虫は、コナジラミ類がよく発生するので、早めに定期的に、防除して下さい。(粘着くん剤など) 又、黄色の虫取り紙のようなものを置いておくとよく取れ効果があります。

増殖

増殖はさし木で、春に充実した枝を長さ6~10cmに切り、切り口を鋭い刃物で切り、火山レキやパーミキュライト等の用土を使用します。温度を20前後に保ち、半日陰で管理してやれば、わりと簡単に増やせます。

主な仕立て方

スタンダード: 主枝を長さ(40~100cm程度が良い)になるまで、側枝は早めに取り除きます。長さに達したら2~3回、ピンチ(摘心)を行い、頭部をつくります。(生長の早い品種が良い。)

株仕立て: 2節目で摘心し、以後この摘心を繰り返し、株を作ります。

(下垂性以外の品種ならどれでも可能)

ハンギング: 下垂系の品種が適します。2節目で摘心し、もう2節目で2回目を行い、あとは伸ばします。

外で越冬できる 耐寒性フクシア

ハーディ フクシア Winter Hardy Fuchsia

分類 アカバナ科 フクシア属

原産地 中米～南アメリカ ニューギニア～オーストラリア南部 西インド諸島

園芸分類 落葉性の低木 亜低木

Fuchsia L 園芸品種は *Fuchsia* × *hybrida*

垂れ下がって咲く花の形から Lady's Eardrops (淑女の耳飾り) と呼ばれ、数多くの園芸品種が作出され、豊富な色・形があり、欧米では絶大な人気があり、日本でもハンギングやコンテナに植えられ、窓辺やベランダによく飾られています。そのフクシアの園芸品種はアンデスの高地に自生している *F. magellanica* などを交雑されて作出されており、北海道の屋外で越冬できる種類があるのをご存知ない方も多いのではないのでしょうか？

勿論 本州でも越冬できますが 暑さが苦手なフクシアは 梅雨時期以降 夏越しが
できず ひどく、傷んでしまう事が多いようです。

夏冷涼な道内では 夏越しは問題なく、越冬できる種類ならば 露地植えができる
最適な場所です。

5月末から萌芽し始め 早い種類で7月中旬から花を咲かせ 霜が降りる 10月下～11月
初頃まで咲き続けるので、花の少ない夏～晩秋にかけて、花壇を彩ります。

また、花だけでなく黄葉・斑入葉をもつ種類もあり カラーリーフとしても利用価値があり
ます。

ハーディ フクシアの育て方(札幌基準)

植え場所は日当たり・水はけが良く、風(特に早春の北風)に弱いので 生垣等の近くで風から防げる場所なら ベスト。

秋までに十分に根を張らせる為に 堆肥などを入れて耕して

5～6月中旬までに苗を植える。

その際 株元を凍害から守るため 地際より 15cm程度 下に 深植えする。

11月上旬頃(根雪がくる前)に 腐葉土などで 株元を 20cm程度の厚さで覆う。
(コンポストマルチ)

春、地上部の枝は枯れているが 地際から萌芽してくるのは5月下～6月初なので
芽が出てきたのを確認してから 枯れた枝を剪定する方が良い。

肥料は 6月頃 緩効性(かんこうせい)のものを施し、後は生育を見ながら
液肥などを施す程度で良い。